

琳派に遊ぶ展

会員展

現代の琳派を目指して 長尺布にデザイン

- 日時＝平成27年2月24日(火)～3月1日(日) 10:00～18:00
- 場所＝京都万華鏡ミュージアム 姉小路館ギャラリー
- 入場者数＝約200人

2014年度は、京都府・市が取り組む琳派400年に因み、「ひと筋の布に藝が踊る 琳派に遊ぶ展」と題した会員展を開催しました。デザイナー一人ひとりの「マイ琳派デザイン」を、長さ2.5メートルの生地に展開、展示しました。

今回は生地へのデザイン展開だけでなく、会場となった万華鏡ミュージアムに因み、各作品の一部を使用した万華鏡の展示も行いました。

グラフィックデザインやイラストレーションによる作品を始め、デザイナーそれぞれの個性が光る作品展となりました。

万華鏡ミュージアムでの展示の後、京都府庁旧本館で開催された観桜祭、秋田での展示に続き、今年の8月には京都府立植物園での展示も開催予定です。



巡回展

<観桜祭展>

- 日時＝平成27年3月21日(土)～31日(火)
- 場所＝京都府庁旧本館正庁

<秋田展>

- 日時＝平成27年5月3日(土)～24日(日)
- 場所＝秋田公立美術大学サテライトセンター
秋田駅前フォンテAKITA 6F

<府立植物園>

- 日時＝平成27年8月予定
- 場所＝京都府立植物園

特別会員久谷政樹先生が 「琳派に見るデザインの真髄」をテーマに講演

3月22日、京都府庁旧議場にて、久谷政樹前理事長による「琳派に見るデザインの真髄」をテーマにした講演会が開かれました。今世まで脈々と受け継がれている琳派の真髄にまつわる講演に、来場者は熱心に耳を傾けていました。



京都新聞で紹介されました！



秋田で2理事が 「地域活性化するデザイナーの仕事」について講演



- 日時＝平成27年3月14日(土) 16:00～17:30
- 場所＝秋田公立美術大学サテライトセンター
- 参加人数＝約40人

秋田市民の方を対象に、土居常務理事と井上理事がこれまで手がけた建築について講演しました。デザインの手法やその解釈の仕方、また地域活性につながる伝統を生かした建物の再利用などについて解説しました。



カラー・オンデマンド・パブリッシング・システム

DocuColor 1450 GA

プロフェッショナル待望の高性能を、この一台に。
DocuColor 1450 GA がクリエイティブの可能性をさらに広げます。



FUJI xerox
富士ゼロックス京都株式会社
〒604-8166 京都市中京区三条通烏丸
西入御倉町85-1 烏丸ビル7F
Tel 075-241-0281
Fax 075-223-1508

LOOK! KDA



2015
夏
vol. 9

2014年7月～2015年5月のご報告

公益社団法人
京都デザイン協会

〒604-8247
京都市中京区塩屋町39
TEL:050-3385-8008
FAX:050-3385-8009
URL:http://www.kyoto-design.net/
E-mail:info@kyoto-design.net

2015年 5月27日発行

京都デザイン協会会員みなさまに
KDAの今を随時ご報告します。

会員のために、
京都デザインの明日のために
さまざまな事業活動を実施中。
どうぞご参加ください。

第35回 京都デザイン会議

グローバルワーキングを 考える

京都で活躍する外国人を囲んで
熱くディスカッション

- 日時＝平成27年2月8日(日) 13:40～16:40
- 場所＝京都市国際交流会館kokoka 2階 特別会議室
- 参加者＝94名
- 交流会＝17:00～19:30

第1部「シンポジウム」

●パネラー

Bettina Langer-Teramoto(ドイツ出身 建築家)
Duncan Brotherton(オーストラリア出身 グラフィックデザイナー)

●ナビゲーター

Eric Luong(カナダ出身 イベントオーガナイザー)

今回は、京都や関西を中心に活躍している海外のデザイナー、建築家、アートディレクターのみならずマーケティング・プロデューサーやライフコーチなど、多方面で活躍されている方々に集まっていたきました。

彼らが、来日してからどのような問題に直面し乗り越えて来たか、また日頃考えている京都デザインのポテンシャルとは何なのか？これからのグローバル時代を我々京都に住むデザイナーや企業がどう生きていくかについて、第1部はパネラーとディスカッションを行っていただきシンポジウム形式で、第2部は分科会として、参加者とゲストが直接議論し合うディスカッションの場を設けました。

今までのデザイン会議とは異なり、講

師による一方的なレクチャーを受けるのではなく、参加者一人ひとりが各分野の専門家達と直接話し合うことのできる、双方向型意見交換型的方式を採用しました。

このグループディスカッションの中で、仕事のヒントや、ここ数年取り上げられている、京都から世界へ「京もの」をどのように発信していけば良いかという課題に対しても、何らかの方向性が見つかったのではないのでしょうか。

今回の京都デザイン会議は新たな試みでしたが、この勢いを維持しつつ、第36回の開催に繋がればと思います。

会議終了後、同会館2階ルヴェ・ソン・ヴェール岡崎にて交流会を行いました。国際色あふれるにぎやかな宴となりました。